

令和6年度 学校評価結果『自己評価』と『学校関係者評価』(一部抜粋)

1 2月にアンケート調査を保護者・3年生以上の児童・職員を対象に行いました。多くの保護者の皆様から回答をいただき、ありがとうございました。
なお、評価結果は、ホームページでも公開していますので、ご覧ください。

1 知徳体の調和のとれた教育活動を展開し、子どもたちの豊かな人間性を育む。

評価項目	重点目標	自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善策 次年度への課題
確かな学力の育成	・基礎、基本の定着を図る。(漢字・計算) ・問題解決的な学習、体験的な学習を通して、自ら考え、判断する力を育てる。	B	A	・毎学期の勉強がんばり週間に続き、漢字と計算の力だめしを行い、家庭とも協力して基礎学力の定着を図ることができた。 ・異学年で遊ぶ活動や行事における縦割り班活動により、学年を超えた子ども同士の充実した活動ができた。 ・運動会や持久走大会では、種目の工夫や選択制のコースを作るなどし、運動の苦手な子も楽しんで体を動かすことができた	適切	・心豊かな教育の推進を望みます。 ・社会が要求することが変化することを受け、学年のコミュニティなどの谷川らしさを考えての取り組みを進めてほしい。	・個々の子どもの様子や人間関係をより深くつかむよう努力する。子どもの興味関心の高いタブレットの利用を推進するなど、子どもたちの「発言する」意欲を引き出す工夫を考えていきたい。 ・地域から、あいさつの返答が少ないとのご意見をいただいた。心豊かな子の育成の一端として「進んであいさつができる子」を目指し、地域ぐるみで取り組みたい。
豊かな心の育成	・自己を大切に、共に生きようとする態度を育てる。 ・地域の自然を生かした教育を推進し、ふるさとを愛する心を育てる。	A					
たくましい身体の育成	・体育の授業、体育的行事、外遊びを通じ、健康な体をつくる。	A					

2 教職員の授業力を高め、力量の向上を図り、信頼される教師集団をめざす。

教職員の人間力の向上	・得意分野を生かし、力量向上に取り組む。 ・子供の人格を尊重し、温かく接する。	B	B	・教員どうしが授業や朝の活動のお話タイムを参観し合って、指導法の研修をすすめることができた。 ・毎月生活アンケートを実施し、結果から生活サポート委員会を実施して子どもの理解を深めることができた。個別の事案についても教職員全体で丁寧な情報交換共有を行い、保護者との接し方も学んできた。 ・教育活動の見直しを行い、次年度の計画に、反映できるようにした。	適切	・教職員の人間力育成の一端として叱ると怒るの明確化をし、指導に臨んでほしい。 ・児童とのコミュニケーションを深め、建設的な対応を続けてほしい。 ・保護者への通知文など丁寧な対応を心がけること。 ・教職員の業務削減、多忙感を解消に努めてほしい。	・子どもたちが困ったときにすぐに相談できる体制づくりをさらに進めるとともに、すべての教職員で一人一人の子どもに目を向け、見守り、保護者との連携を密にして迅速に対応する。 ・教員として、授業づくりのみならず、子どもや保護者とのかかわり方や子どもを守るために研修を行い、教員の力量向上に努めたい。
教員の授業力向上	・問題解決的な学習(主体的・対話的で深い学び)の授業研究を進める。 ・話し合い活動のスキルを磨く。	A					
不祥事防止、多忙化解消、多忙感の解消	・互いのよさを認め合い、常に報・連・相を心がけ、共通理解を徹底する。 ・不祥事を起こさないという意識をもち、声をかけあい防止に努める。 ・知恵を出し合い、業務改善を進める。	B					

3 安全管理を徹底するとともに、健康・安全教育の充実を図る。

健康で規則正しい生活の定着	・生活点検を通して家庭と連携しながら取り組み、望ましい生活習慣の定着を図る。 ・食物アレルギーの新しい対応方針のもと、事故防止に努める。	A	A	・生活点検「けんこうチャレンジ」や「メディアチャレンジ」を通して、保護者の協力が高まり、生活習慣が定着しつつある。 ・児童一人一人のがんばりやよさを認めて声かけをし、自己肯定感や自己有用感を高めるようにした。 ・安全点検を活かし、早期改善に努めている。	適切	・自らの心身の健康を守ったり、危機管理能力を高めたりするため、子どもたち自身が自らの判断力を高められる取り組みを進めてほしい。特にメディアへの依存度が高くなっているので注意してほしい。 ・谷川地域だからこそその声をかけあえる様子を大切にしていきたい。	・生活点検や安全点検を継続するとともに、地域、保護者とのつながりを大切にし、協力して子どもたちを支えられるようにしたい。来年度導入するコミュニティ・スクールでも議題として掲げ、連携した具体的な取り組みを考えていきたい。
自らの力で危険を回避できる子の育成	・「安全の手引き」を活用し、自らの命を守るための力を養う。 ・登下校の安全確保に家庭や地域と連携して取り組む。	A					
教育環境の安全確保	・危険箇所の把握と予防に努める。	A					

4 地域の教育力を積極的に取り入れた特色ある学校づくりの推進に努める。

地域の教育力を活用した ESD の推進	・地域の人材と教材を教育活動に活用し、その成果を地域に発信する。	A	A	・みかんの世話、米作りなど多くの方々に今年もご指導いただき、有意義な活動となつた。	適切	・自然に優しい子の育成強化に努め、谷川の独自性をもって、地域と共に教育を進めてほしい。	・今後も谷川の地域教材を大切にし、取り組んでいきたい。内容の精選、人材確保に努め、持続可能な方法を考えたい。
---------------------	----------------------------------	---	---	---	----	---	--